別紙様式

令和４年度 体育に関する指導推進校

男女共習、選択制授業における指導法の工夫
～アダプテーションゲームの活用～
広島県立高陽高等学校

全生徒数	706 名 （男子 308 名　女子 398 名）
全クラス数	18 クラス（各学年６クラス）
TEL	（082）842-7781

１ 課題と目的
課題：球技（ゴール型）におけるアダプテーションゲームの工夫
目的：運動好きな生徒の増加につながる，効果的な指導法の開発

２ 主な取組の内容（球技）
〇種目：球技（バスケットボール）
〇対象：１年生（男子10名，女子12名）
〇時間：10時間
※男女共習による選択制授業で実施。
アダプテーションゲームを取り入れながら，３つの資質・能力の向上や，楽しさ・喜びを味わうことができるか検証を行った。

３ 取組で工夫したところ
⑴ 技能の上達に向けて
アダプテーションゲーム①技能の低さが原因でゲームに参加したがらない生徒②技能が高いため手加減して参加する生徒，どちらの生徒も思いきり活動することを目指した。また，２年次以降に向けて，アダプテーションゲームの中で身に付けたことを従来のゲームでも発揮できる機会を単元の後半に設け，生徒が今後の課題を発見できるように工夫した。
※今回の取り組みでは，ゲームに負けたチームが勝ったチームにルールの調整（アダプテーション）を要求することとした。
⑵ 思考力，判断力，表現力等の向上に向けて
ゲームに負けたチームが勝ったチームにルールの調整（アダプテーション）を要求することで，違い（差）を理解し，その違い（差）を生徒が主体的に埋めようと思考する機会を設定した。
⑶ 学びに向かう力，人間性等の向上に向けて
アダプテーションを協議することで仲間と協働する場面や，アダプテーションの設定によって戦術的な学びを促進し，自ら考え，判断する機会を設定した。

４ 成果と今後の課題
≪成果≫
⑴ 技能の上達に向けて
ドリブルを制限することで，スペースを見つけてボールをもらおうとする動きが生まれた。リングを活用することでリバウンドが活発になった。
⑵ 思考力，判断力，表現力等の向上に向けて
生徒主体でルールを調整することで自己や他者の特徴を理解しようとする姿勢が見られた。事後アンケートでもアダプテーションに対する満足度も総じて高かった。
⑶ 学びに向かう力，人間性等の向上に向けて
アダプテーションを取り入れることで，他者との対話はもちろん，苦手な生徒でもボールに触れる機会が増えた。
≪課題≫
アダプテーションに対する認識の差や，勝敗へのこだわりから不公平感につながる場面もあったため，教師の働きかけが重要だと感じた。他学年や他領域でも有効性を検証したい。

男女一緒にスクエアパスの練習をしている場面

相手チームにアダプテーションの提案をする準備をしている場面

アダプテーションゲームの前にグループで作戦を考えている場面